

鹿市医郷壇



(505)

樋口 一風 選

兼題「送つ（おくつ）」

天

上町支部 吉野なでしこ
亭主をば送り出つかあ我が天下
(唱) 早よお帰りち笑顔をば見せつ
(評) ご亭主を送り出したら、もう奥様の天下です。洗濯や掃除は手早く済ませると、誰にも気兼ねをせずに、友達と世間話に花を咲かせたり、街に出てレストランでランチしたりと楽しい時間を過ごします。
お昼のレストランに行くと約90%はご婦人方です。この句の意味がよくわかりました。

地

清滝支部 鮫島爺児医
終電車しえ彼女を送つ寂しゅうなつ
(唱) 心残いのプラットホーム
(評) 遠距離の恋でしょうか。それとも地方都市間の恋でしょうか。いずれにしても楽しかったデートの終わりに、駅まで送るのも寂しいものです。
最終便に乗せるまで、今日二人で過ごした時間が思いだされます。次に会えるのは何時なのでしょう。作者の若かりし日の思い出でしょうか。

人

紫南支部 二軒茶屋電停
送つ来た歳暮ん中身で人を見つ
(唱) 気の利いた品いまた見直せつ
(評) 折角、お歳暮やお中元を戴いたのに、中身を見て心が籠もっているか、適当に見繕って贈ったのか分かるような物も有ります。
お歳暮はお世話になった方への一年の感謝の気持ち贈るもので金額の多寡ではなくて心だと思えます。苦勞して選んだのに逆効果にならないように、心してお歳暮も送らなければと思う句です。

秀逸

清滝支部 鮫島爺児医
旅先で買った土産どま先き送つ
祝ん品喜ばるつで先き送つ
忘れ物後から気付つ送つ遣つ
歳暮送りほつとしたといまた貰ろつ
多け賀状い送つた人か氣いがかつ
戦時中あ兵隊送り派手な祝宴

上町支部 吉野なでしこ
美味土産孫が好つじやち送つ遣つ
黄色い帽子が見ゆいさつさあ婆あ送つ
＊見ゆいさつ（見えなくなるまで）

伊敷支部 谷山五郎猫
退職で減いでた賀状を丁寧ね送つ

印南 本作
切のして娘を見送り背中が泣つ

薩摩郷句鑑賞 144

薩摩狂句暦 三條風雲児著
年の市声もけ噺れた叩つ売い

年末になると、年の市とか師走市とかいわれる市が立つて、正月用品を始め、衣類や食料品、茶碗皿や竹細工等々、いろんなものを売る店が並んだものである。
正月用の下駄を買いに行くのに、下駄市と言ったところもある。店は書き入れ時だから、客を呼びこむのに必死である。口上は慣れているはずの叩売りまで、声を囁らしているとは面白い。

悪り癖も惚れちよい間は氣にやつかじ

上釜 小波
好きな人の欠点は長所に見えてくるし、ひよつとこ、おかめのような顔でも、男美女に見えてくる。「あばたも笑凹」とはよく言つたものである。

それが、「こんな人だと分つていたら、結婚なんかするんじゃないかった」とは、

五客一席 伊敷支部 谷山五郎猫

爺婆もスマホで絵文字ず送い合つ

(唱) 稽古がいったや面白てメール

五客二席 印南 本作

一か八送いバンドで勝つ狙ろつ

(唱) ここが勝負ちコーチンサイン

五客三席 飛脚子一郎

好つじやつち送信出来けん初心な青年

(唱) 押すち思どん指ば震るでけつ

五客四席 清滝支部 鮫島爺児医

見送いの波止場ベテブが情を繋ねつ

(唱) 何時逢がないか別れが辛ろし

五客五席 上町支部 吉野なでしこ

肩上げを解でて送つた七五三

(唱) 永ご会ださんで丈が分からじ

倦怠期や、トラブルを起こした時の夫婦が、よく口にする言葉。人間なんて勝手なものである。

薩摩郷句募集

2号

題吟 「厄払れ（やつぱれ）」

締切 令和4年1月7日(金)

3号

題吟 「娘（おこ）」

締切 令和4年2月4日(金)

選者 樋口 一風

漢字のわからない時は、カナで書いて応募くだされば選者が適宜漢字をあててくださいます。

応募先 千八九二・〇八四六

鹿児島市加治屋町三番十号

鹿児島市医師会「鹿児島市医報」編集係

TEL 〇九九・二二六・三七三七

FAX 〇九九・二二五・六〇九九

E-mail : ihou@city.kagoshima.med.or.jp